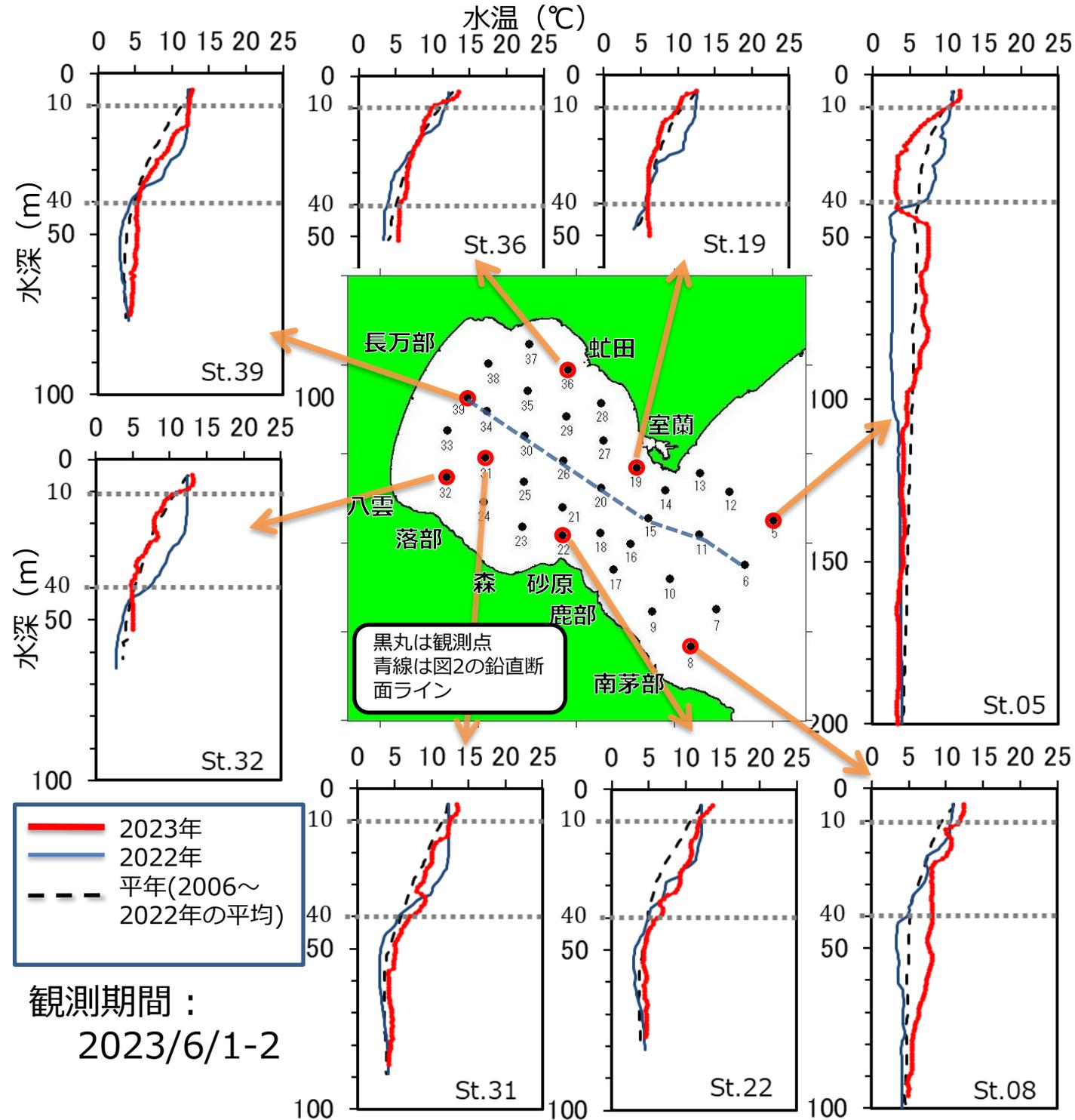


2023年6月1～2日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

表層（深度5m）の水温は、いずれの地点も12～13℃台で平年よりやや高くなっています。深度10～40mの水温は湾外のSt.05で低くなっている他は、概ね5-12℃台と平年並かやや高くなっています。一方、深度50～100mの水温は湾外のSt.05、St.08では平年に比べ1～3℃高く、その他の地点ではおおよそ平年並みとなっています。



【水温，塩分の鉛直断面分布…昨年との比較】

今年の湾内の深度20m以浅は水温が12℃以上で，昨年並～1℃程度高くなっています。また，湾内の深度40m以深の水温は，昨年と比べてやや高くなっています。湾外の水深30～80mには，昨年見られなかった津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）が出現しています。

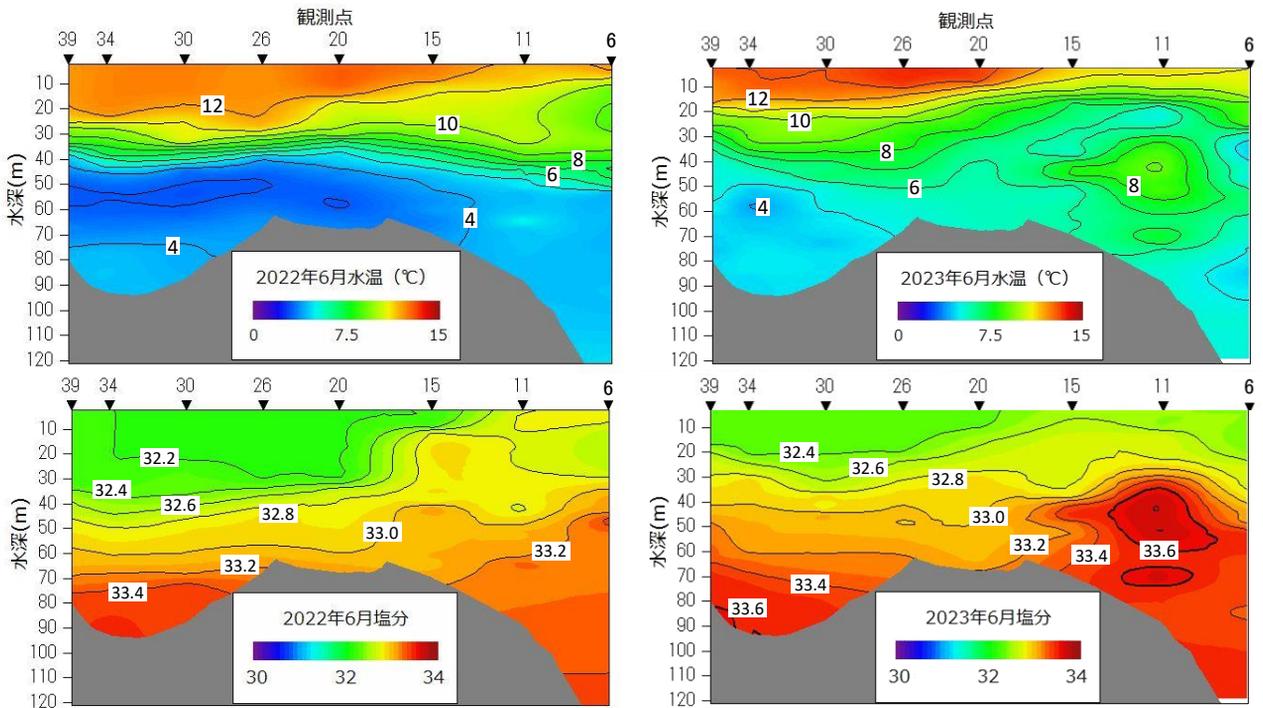


図2 水温・塩分の鉛直断面図（左：2022年，右：2023年）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 上部の▼は観測点

【溶存酸素の分布】

今年の海底上5mの溶存酸素量は，3.7～6.2ml/Lであり，湾奥部で低い地点がありましたましたが，昨年のような貧酸素水（3.0ml/L以下）は観測されませんでした。

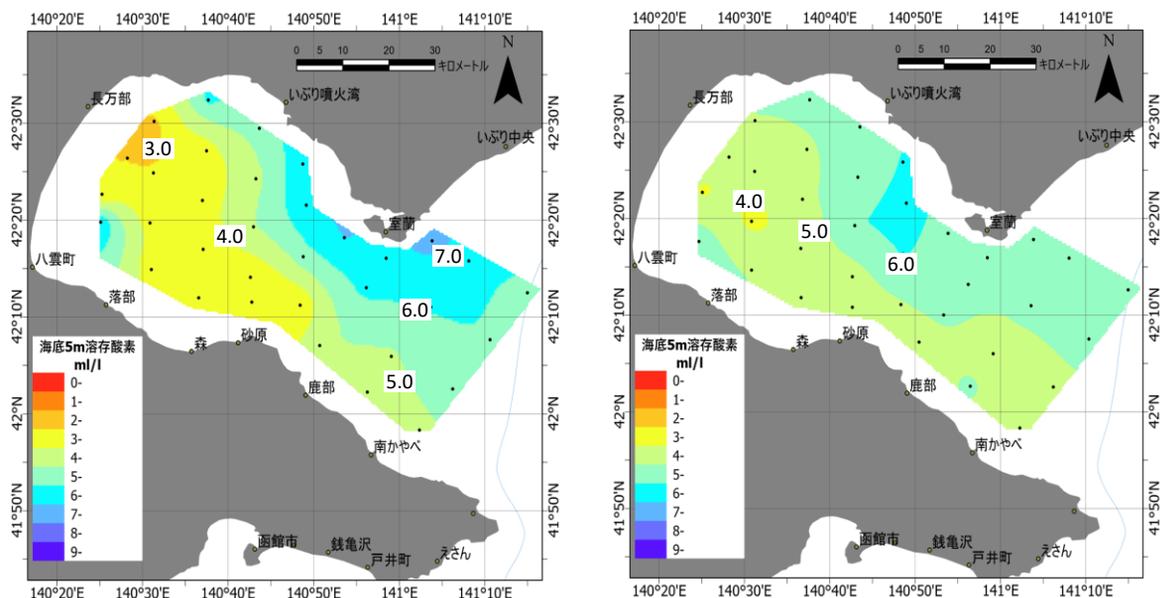


図3 海底上5mの溶存酸素の分布（左：2022年、右：2023年）